

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	奈良県	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>(1) 奈良県の文化遺産を活用した歴史文化体験事業(親子で行く修学旅行・(仮称)塾の先生と行く修学旅行)《観光プロモーション課》 これにより、地域の文化遺産を活用し、地域活性化や観光振興を推進するため、子どもとその保護者、または奈良県への学習を目的とした教育団体(学習塾など)を対象とした「親子で行く修学旅行、(仮称)塾の先生と行く修学旅行」を実施し、奈良県の文化遺産及びそれに係る人々の営みに直接接する機会を設け、我が国の歴史文化への理解を深める。具体的には、旅行会社は交通機関・宿泊施設・着地コンテンツを組み合わせる旅行商品を造成。販売・集客を行い、添乗も実施。また、交通機関はツアーを造成する旅行会社に割引を付加して座席を提供する。</p> <p>(2) 奈良県の無形民俗文化財次世代継承のための総合活性化事業《文化財保存課》(平成29年度まで) 祭りや芸能といった県指定の無形民俗文化財を中心に詳細な映像記録を残すことで、次世代継承のための基礎資料を作成し、これを一般の人々にもわかりやすい形に編集し、普及公開することで、後継者の確保、地域社会の再生を目指す。</p> <p>(3) 建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業《建築家協会》(平成30年度まで) 本事業の具体的な取り組みにより、奈良県内の文化財と成りうる貴重な文化資産の発掘と活用等の保存に向けた方向付けを行い、県民への保存・活用への理解の拡大、伝統的な技術や保全に向けたノウハウの継承、相談窓口による具体的な保全・活用の実践等、関係官庁や関係諸団体、関係技術者等の協力を得て継続的な実施に向けた体制の構築を目的とします。</p> <p>(4) 奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業《国際協力サポーター》(平成30年度まで) 本事業は、奈良の歴史・文化遺産を活かし、海外からの観光客や在住外国人に対して、奈良の伝統的な歴史・文化の魅力を伝え、内外に情報発信し、国際交流と地域活性化に役立てるものとする。</p> <p>(5) 奈良の歴史・文化遺産を活かした地域活性化事業《公益社団法人 奈良まちづくりセンター》(平成30年度まで) 奈良県内の民家・町家において、伝統的な生活文化として継承されている民具や家具等を調査し、記憶として残すと共に、奈良の伝統的な生活文化の魅力を掘り起こし、地域活性化に役立てるものとする。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、奈良県が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。 主な担当課、役割 ○文化財保存課：文化財の取り扱い、調査等に関する調整・指導等をおこなう。 ○観光プロモーション課：観光振興に関する事業実施の調整・連携等をおこなう。 また、事業の実施については、次の実行委員会が実施。 (1) 奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業 奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業実行委員会(委員長 名草 康之)</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 65,235 千円	平成31年度申請額： 6,277 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果(定性的な効果を記載)			
<p>(1) 奈良県の文化遺産を活用した歴史文化体験事業(親子で行く修学旅行・(仮称)塾の先生と行く修学旅行)《観光プロモーション課》 地域の文化遺産を活用し、地域活性化や観光振興を推進するため、子どもとその保護者、または奈良県への学習を目的とした教育団体(学習塾など)を対象とした「親子で行く修学旅行、(仮称)塾の先生と行く修学旅行」を実施し、奈良県の文化遺産及びそれに係る人々の営みに直接接する機会を設け、我が国の歴史文化への理解を深める。</p> <p>(2) 奈良県の無形民俗文化財次世代継承のための総合活性化事業《文化財保存課》 祭りや芸能といった県指定の無形民俗文化財を中心に詳細な映像記録を残すことで、次世代継承のための基礎資料を作成し、これを一般の人々にもわかりやすい形に編集し、普及公開することで、後継者の確保、地域社会の再生を目指す。</p> <p>(3) 建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業《建築家協会》 建築文化財や建築文化遺産に関わる各団体が個々に行っている、文化財や文化遺産関連の保存と活用に関する事業を包括した事業体制を整備することにより、官民協働での一元化した情報の共有や無駄なく効果のある事業展開が可能となる。</p> <p>(4) 奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業《国際協力サポーター》 海外からの観光客や在住外国人に対して、奈良の伝統的な歴史・文化の魅力を伝えることのできる人材育成に加え、奈良の魅力を世界に向け情報発信することができる。また、観光の活性化と県内各所の国際交流による国際化と地域活性化を可能とする。</p> <p>(5) 奈良の歴史・文化遺産を活かした地域活性化事業《公益社団法人 奈良まちづくりセンター》 奈良県内の民家・町家において、伝統的な生活文化として継承されている民具や家具等を調査し、記憶として残すと共に、奈良の伝統的な生活文化の魅力を掘り起こすことで、地域活性化につながる。</p>			

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）	
事業概要：	（１）奈良県の文化遺産を活用した歴史文化体験事業（親子で行く修学旅行、（仮称）塾の先生と行く修学旅行） ・旅行会社は交通機関・宿泊施設・着地コンテンツを組み合わせる旅行商品の造成、販売・集客、添乗も実施。 ・交通機関はツアーを造成する旅行会社に割引を付加して座席を提供。
事業概要：	（２）奈良県の無形民俗文化財次世代継承のための総合活性化事業《文化財保存課》 29年度には無形民俗文化財継承のために各保護団体の連絡協議会を結成し、ワークショップや講演会等を実施する。～29年度
事業概要：	（３）建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業《建築家協会》 本事業の具体的な取り組みにより、奈良県内の文化財と成りうる貴重な文化資産の発掘と活用等の保存に向けた方向付けを行い、県民への保存・活用への理解の拡大、伝統的な技術や保全に向けたノウハウの継承、相談窓口による具体的な保全・活用の実践等、関係官庁や関係諸団体、関係技術者等の協力を得て継続的な実施に向けた体制の構築を目的とします。～30年度
事業概要：	（４）奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業《国際協力サポーター》 本事業は、奈良の歴史・文化遺産を活かし、海外からの観光客や在住外国人に対して、奈良の伝統的な歴史・文化の魅力を伝え、内外に情報発信し、国際交流と地域活性化に役立てるものとする。～30年度
事業概要：	（５）奈良の歴史・文化遺産を活かした地域活性化事業《公益社団法人奈良まちづくりセンター》 奈良県内の民家・町家において、伝統的な生活文化として継承されている民具や家具等を調査し、記憶として残すと共に、奈良の伝統的な生活文化の魅力を掘り起こし、地域活性化に役立てるものとする。～30年度
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等	
なし	
12 担当部局	
地方公共団体 担当部局課	奈良県地域振興部文化財保存課

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	首都圏からの宿泊観光客数			関連事業:	①⑧⑨⑩	
目標値 1 :	【現状値】 平成 28 年度 86 万人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 99 万人					
設定根拠 1 :	平成28年の首都圏からの宿泊観光客数の伸び率1.03%を参考として、毎年伸び率を1.03%と設定					
進捗状況 1 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
88 万人	91 万人	万人	万人	万人	万人	
15%	38%					
目標区分 2 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2 :	地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	事業完了後の住民アンケート			関連事業:	②③④⑤⑥⑦⑪⑫⑬	
目標値 2 :	【現状値】 平成 28 年度 60 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 85 %					
設定根拠 2 :	住民アンケートを実施し、地域への愛情・誇りを感じる住民の数を測定。					
進捗状況 2 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
75 %	80 %	%	%	%	%	
60%	80%					

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業					実施団体：	奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業実行委員会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	地域の文化遺産を活用し、地域活性化や観光振興を推進するため、子どもとその保護者、または奈良県への学習を目的とした教育団体（学習塾など）を対象とした「親子で行く修学旅行、（仮称）塾の先生と行く修学旅行」を実施し、奈良県の文化遺産及びそれに係る人々の営みに直接接する機会を設け、我が国の歴史文化への理解を深める。また、ツアー実施にあたっては、本事業を活用し、旅行会社や交通機関等と連携を図り、旅行商品の造成・ツアー実施に結びつける。										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	首都圏からの宿泊観光客数										
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 88 万人 ⇒ 【目標値】 令和 33 年度 99 万人										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
88 万人	91 万人	万人	万人	万人	万人						
0%	27%										
事業②：	奈良県の無形民俗文化財次世代継承のための総合活性化事業					実施団体：	奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業実行委員会				
事業区分：	記録作成					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	祭りや芸能といった県指定の無形民俗文化財を中心に詳細な映像記録を残すことで、次世代継承のための基礎資料を作成し、これを一般の人々にもわかりやすい形に編集し、普及公開することで、後継者の確保、地域社会の再生を目指す。										
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	Youtubeの閲覧回数										
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 10 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 100 人										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
10 人	30 人	人	人	人	人						
0%	22%										
事業③：	歴史的建造物の保全・活用の促進に係る専門家育成事業					実施団体：	一般社団法人奈良県建築士会				
事業区分：	人材育成					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	奈良県の特定地域内の地域の伝統文化を活かした住まいまちづくりから面的なまちづくりの展開を図ることを目的に、地域に根ざした歴史的建造物の掘り起こしを行い歴史的建造物の保全・活用を担う人材として、奈良県地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）養成講習会を実施し、育成する。										
評価指標区分：	・ヘリテージマネージャー育成講座修了者によるヘリテージ活動件数					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	歴史的建造物に関する調査、普及啓発活動等に係る人数及び時間										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 66 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 150 人										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
110 人	110 人	人	人	人	人						
52%	52%										

事業④：	建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業（２）	実施団体：	公益社団法人日本建築家協会近畿支部奈良地域会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度	～	平成 33 年度	
事業概要：	<p>(1) ホームページによる情報発信 歴史的建造物の活用事例の紹介、相談窓口の案内等を一般に向けホームページで情報発信する。</p> <p>(2) パネル展の開催、配布資料の作成 歴史的建造物の活用事例等のパネルを作成し、公共の場での展示による情報発信や、文化遺産の保全と活用提案のシステムをパンフレットとしてまとめ、一般に向け配布する。</p>					
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	ホームページ閲覧数、パネル展入場者数					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 1,400 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 2,000 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
1,400 人	1,900 人	人	人	人	人	
0%	83%					
事業⑤：	建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業	実施団体：	公益社団法人日本建築家協会近畿支部奈良地域会			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度	～	平成 33 年度	
事業概要：	<p>文化財建造物等を保存・修理・維持・活用していくために、関係する全般的な知識を身につけた技術者を養成するための講座を開催する。建築士はもとより一般にも学ぶ機会を設け、現地見学会及び講習を組み合わせ、修復塾現地講習として開催する。</p>					
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	修了者による建築文化遺産関連の活動者数					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 20 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 40 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
20 人	25 人	人	人	人	人	
0%	25%					
事業⑥：	建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業	実施団体：	公益社団法人日本建築家協会近畿支部奈良地域会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度	～	平成 33 年度	
事業概要：	<p>建築物等文化遺産の保存及び景観保存に向けての啓発事業として、有形文化財の情報発信をはじめ、保存・利活用事例や、伝統的技術、防災を含む新技術の紹介、利活用や維持管理にむけた方策等のセミナーとして開催し、修理・改修・利活用に関して市民が気軽に相談できる窓口を設置する。</p>					
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	建築文化遺産の継承と保全・活用について、住民の認識度合（参加者数、協力団体数）					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 45 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 150 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
45 人	100 人	人	人	人	人	
0%	52%					

事業⑦：	建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業（２）	実施団体：	公益社団法人日本建築家協会近畿支部奈良地域会			
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	建築文化遺産の発掘と概略データのデータベース化、建築アーカイブスの発掘と保存に向けた取組。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	データベース作成数					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 0 件 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 10 件					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
10 件	10 件	件	件	件	件	
100%	100%					
事業⑧：	奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業	実施団体：	(特活) 奈良国際協力サポーター			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	ウォークや講演会、翻訳事業を通じ、記紀・万葉の内容をはじめ、奈良の歴史・文化遺産を海外の方々に情報発信できる人材育成を行う					
評価指標区分：	・ボランティアガイド育成講座修了者の後年度活動者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	各年度の外国語ガイド講座修了者の活動者数(ウォーク対応者)					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 5 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 8 人					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
5 人	6 人	人	人	人	人	
0%	33%					
事業⑨：	奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業	実施団体：	(特活) 奈良国際協力サポーター			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	海外観光客や、在住外国人や市民を対象として、奈良県内にある豊富な、記紀・万葉・史跡等を巡るウォークや講演会を開催する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	事業参加者の内、外国人の割合					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 2 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 25 %					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
2 %	4 %	%	%	%	%	
0%	9%					

事業⑩：	奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化				実施団体：	奈良国際協力サポーター		
事業区分：	記録作成				事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	奈良の魅力ある歴史・文化を多言語に翻訳し、ウォークや講演会などの配布資料とする。							
具体的な指標：	翻訳資料の活用団体の数							
目標値：	平成 29 年度		5 団体		⇒		平成 30 年度 7 団体	
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率							
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度			
5 団体	3 団体	団体	団体	団体	団体			
0%	60%							
事業⑪：	奈良町の歴史・文化遺産を活かした地域活性化事業				実施団体：	公益社団法人奈良まちづくりセンター		
事業区分：	情報発信				事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	町家の蔵などに遺された生活文化、民俗資料等を発掘した成果を踏まえ、写真パネルにまとめて展示したり、ホームページで発信する。							
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	奈良町物語館等における写真パネル展の入場者数							
目標値：	【現状値】 平成 29 年度		100 人		⇒		【目標値】 平成 33 年度 300 人	
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率							
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度			
100 人	150 人	人	人	人	人			
0%	25%							
事業⑫：	奈良の歴史・文化遺産を活かした地域文化遺産活性化事業				実施団体：	公益社団法人奈良まちづくりセンター		
事業区分：	情報発信				事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	当該文化遺産・文化財の専門家や保有者、資料作成担当者などを講師・パネリストとした、講演会・報告会・シンポジウムを開催する。市民や学生の参加により、奈良の生活文化の重要性の認識を広げる。							
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	奈良の歴史・文化遺産について、住民の認識度合（参加者数、協力団体数）							
目標値：	【現状値】 平成 29 年度		30 人		⇒		【目標値】 平成 33 年度 50 人	
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率							
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度			
30 人	35 人	人	人	人	人			
0%	25%							

事業⑬：	奈良町の歴史・文化遺産を活かした地域活性化事業	実施団体：	公益社団法人奈良まちづくりセンター			
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	町家・民家・会所等に遺された文物の調査と記録作成は、それらの文物が制作された年代、使われていた時代の特定ができ、利用される実態を把握。デジタル化することにより、「奈良のストック」文化遺産（文物）の保存・公開の場の実現に向けた取組となっている。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	記録作成の対象となる物件（町家、民家、会所、等）数					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 2 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 6 人					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
2 人	3 人	人	人	人	人	
0%	25%					